

第13回 栃事研セミナー レポート

1月15日(金)に宇都宮市のパーティとちぎ男女共同参画センターにて、第13回栃事研セミナーを開催しました。今年度は、「カリキュラム」をテーマに、講師として日光市教育委員会事務局学校教育課課長補佐兼教育指導係長 岡本 一穂 氏を迎え研修を行いました。

カリキュラムについて理解を深め、事務職員として専門性を活かし、子どもの学びづくりに積極的に参画することを目指しました。

講義・演習① 「中学生になってアクティブ・ラーニングをする」

午前中の研修では、実際の授業形式で「アクティブ・ラーニング」の学びをグループに分かれて体験しました。中学校社会科の「自由権」をとりあげ、自由権はどこまでが自由の範囲内であるのかを考えました。「教師」である講師の投げかけに、「生徒」である私たちは、各自の意見をグループ内で共有し合い、そこから自ら考え、「納得解」を見つけ出していきました。

子どもが主体となって学習を進めていくために教師は、学習に没頭する環境づくり、子どもたちの考えや関係をつなぐこと、「学び」は型ではなく「主体的な学び」があるかどうか、を考え授業を進めていく必要があります。教師が与えた課題に対し what 型の質問から why 型の質問へ変化させることが大切であると説明していただきました。



岡本先生の話の中で、教師は「学習環境のデザイン」、「教える場面、思考・判断・表現される場面の効果的なデザインと指導」をするデザイナーにならないといふ言葉がとても印象的でした。

実際にアクティブ・ラーニングの授業を体験することにより教育内容の変化を体感するとともに、日々学校に求められるものが変化していく中で、私たち事務

職員は学びづくりにどのように参画していけば良いのか考えるきっかけとなりました。

☆アクティブ・ラーニングの方法で授業を行っていくために・・・

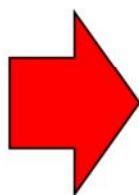
従来の受動的な授業から能動的な授業にチェンジする → 頭がアクティブになる授業を

「キャッチアップ」の時代に求められる教師の役割

一斉・画一的・講義型の授業

・教師
「これを説明すると・・・」
「次はこれをやって」
・子ども
「先生、どうするんですか」
「次は何をやればいいですか」

子ども主体の授業へ



「イノベーション」の時代に求められる教師の役割

相互交流・発信型の授業

・教師
学習の手順の説明、適切な介入
・子ども
「もっと調べたい！」
「次はこうしない？」
「賛成！」

講義・演習②

「カリキュラム・マネジメントに関わる」

午後の部は、まずカリキュラムについて、そしてカリキュラムマネジメントについて講義があり、その後、学校行事をひとつ例にとり、カリキュラム・マネジメント(カリ・マネ)をする演習をおこないました。

架空の中学校の運動会を想定し、教育目標を「自立と貢献」として、それぞれが思う「自立した生徒像」をグループ内で共有しました。そこから「生徒にどんな力を身につけさせたいのか」を導き出していきました。



次に、「どのような行動が見られればその力が付いているのか」という視点で、評価規準を考えました。運動会の計画・練習・当日と3場面に分け、学校と地域において、評価規準を考えピンクの付箋に書き、それらを育成する場面(指導方法)を青色の付箋に書きました。各グループが、それぞれのめざす「生徒の姿」を思い描き、教育活動の効果を考えていきました。

最後に、シートの余白部分に、事務職員としてこの教育目標を実現させる教育活動(場面)にどのように関わることができるかを話し合い書き出しました。練習の外部講師に地域のボランティアを活用するその連絡調整や、新たな競技・種目の実施に伴う財源の確保など、事務の専門性を生かした関わり方の意見が多く出ていました。

受講者の皆さんは、自分の勤める学校は、「子どもたちをどのように育てたいか」という目標を達成するために重要なカリ・マネを通して、子どもの学びづくりに事務職員として何ができるのか、何をしなくてはいけないのかを真剣に考えていました。また、講義やGWを通して、新たな気づきも多く生まれたようでした。

最後に、グループでまとめたものを発表しました。若手事務職員からベテラン事務職員の様々な発表を聞くことで大変勉強になりました。

この研修をとおして、事務職員もカリキュラムについて、一層理解を深めることができ、様々な職種の方と協働して教育活動に関わっていくことの必要性を実感することができました。

そして、今回研修を受けて感じた新たな気づきを学校に持ち帰り、それぞれの学校の教育目標達成のために、事務職員一人ひとりが学校経営に参画していくことが大切だと感じました。

